

「瞑想と科学」

3. 『プリハッドアーランニヤカ・ウパニシャッド』Ⅳ. 5-15「ヤージュニャヴァルキヤ仙の遺憾」

高野山大学図書館長 前谷 彰 (恵紹)

「なぜなら、いわば二元性といったものがあるならば、その場合には甲は乙を見、その場合には甲は乙を嗅ぎ、その場合には甲は乙を味わい、甲は乙に語り、甲は乙を聞き、甲は乙を思考し、甲は乙に触れ、甲は乙を認識する。しかし、ある人にとって、一切がアートマンとなったときには、彼は何によって何を見るのであろうか。彼は何によって何を嗅ぐとあろうか。彼は何によって何を味わい、彼は何によって何に語り、彼は何によって何を聞き、彼は何によって何を思考し、彼は何によって何に触れ、彼は何によって何を認識するのであろうか。それによって、この一切を認識するところのもの、それを何によって認識することができようか。このアートマンは、ただ、**くそうではない、そうではない**と説かれる。アートマンは不可捉である。何となればアートマンは補足されないからである。アートマンは不壊である。なぜならアートマンは破壊されないからである。アートマンは無執着である。何となればアートマンは執着しないからである。アートマンは束縛されることなく、動揺せず、毀損されることもない。ああ、認識の主体を何によって認識することができようか。おまえはすでに教えを受けたのである。マイトレーヤよ。ああ、不死とは実にこのようなものである」と。こう語り終わってヤージュニャヴァルキヤは去っていった。(辻訳)

ユダヤ系フランス人の数学者であるブノア・マンデルブロ (Benoit Mandelbrot) は 1960 年に、「自然の形成原理はく自己相似性>にある」という「フラクタル (相似)」概念を発表したが、この「ヤージュニャヴァルキヤ仙の遺憾」はまさにこの理論にほぼ一致すると言わざるを得ない。空間のフラクタルを考えると、まさにくここ>に無限宇宙が含まれていると考えることができ、どこにいても宇宙の全てが含まれていて、どこにいても宇宙の中心にいるという考え方が可能となる。すると、空間だけでなく、意識や思考もフラクタルで考えることができ、2 枚の鏡を平行に向き合わせて覗き込むと、無数 (無限) の自分の像が映しだされ、現実 (物理的) には無限は存在しないが、一瞬にして無限を作りだすことができることになるであろう。われわれが無限を認識するのも、同じ構造が意識の中にあるからであって、われわれが外界を認識する時、意識に映った外界の中には自分自身の意識の姿も映っているということであり、つまり世界と自分は一種の合わせ鏡になっていると考えられるのである。

空海はその著『即身成仏義』の偈偈で、「法然に薩般若を具足し (ありのままにすべてをあまねく知る智慧を具えて)、心数心王刹塵に過ぎたり (大日如来の表現たる衆生は各々こころの働きやありようが無数の塵を過ぎている)、各々五智無際智を具す (その無数の塵はそれぞれ大日如来のはかりしれない智慧を持っている)、円鏡力の故に実覺智なり (フラクタル [自己相似性] であるが故に、く自分がその中心にいるという> 真実の智慧を実現することができる)」と表現しているが、これこそがフラクタルの概念に合致するのである。

さらに、空海は『般若心経秘鍵』の最後の偈偈で、「真言は不思議なり。観誦すれば無明を除く。一字に千理を含み。即身に法如を証す。行行として円寂に到り。去去として原初に入る。三界は各舎の如し。一心は是れ本居なり。」と、現代の量子力学の導き出した結論を見事に言い当てていると言っても過言ではない。ここで、「行行として円寂に到り」とは「行って行って行って行って、地平のかなたの水平のしずまりきった境界へと到達すること」であり、これを $+\infty$ とするなら、「去去として原初に入る」は「戻り戻り戻り戻って自己の本核に入ること」であり、これは $-\infty$ ということになる。しかし、本居である「一心」の境界は、実は $+\infty$ と $-\infty$ が相即して、自己こそが宇宙の中心であることに気づくのである。ところが、その自己さえも、実は実体のない現象の一つに他ならないからこそ、仏教では、「縁起」というメカニズムの中で、終局的には自己の存在も実体のないもの、つまり「非 (無) 我」が主張されることを忘れてはならない。(終)

2018年 11月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

2018年 12月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

	9:00-20:00		9:00-17:00
	休館日		13:00-20:00
	13:00-19:00		9:00-19:00

戸田文化講座

高野山大学図書館開館 120 周年を記念して戸田文化講座が開催されます。

申込み、参加費は不要です。

皆様、お誘いあわせの上ぜひお越しください。

講座の受付時間は 9:30 からです。

お問合せは、高野山大学図書館までお願いします。



竹村 牧男先生
(東洋大学学長)



前谷 彰先生
(高野山大学図書館長)

プログラム

10:00~10:50 講師：竹村牧男 (東洋大学学長)

講演「即身成仏ということ」

11:00~11:30

竹村牧男 (東洋大学学長), 前谷彰(高野山大学図書館長)

対談「即身成仏ということ」

日時：11月25日(日) 10:00~11:30

場所：高野山大学本館 2階 201号教室

※当日 8:00 時点で、紀北に気象警報が発表されている場合は中止します。荒天や地震・事件・事故などにより中止・中断になった場合、HP、ツイッターにて中止のお知らせをします。

読書のすすめ

10月27日から11月9日は読書週間です。

読書推進運動協議会より、この1年に出版された本の中から「ぜひ読んでもらいたい本」が選定されます。普段読まない方もこれを機会に読んでみませんか。図書館閲覧室に開架しています。ぜひご覧ください。

バッタを倒しにアフリカへ 前野ウルド浩太郎著

請求記号：680/ウ/10-1，登録番号：000166131

銀河鉄道の父

門井慶喜著

請求記号：680/カ/20-1，登録番号：000166049

キャスターという仕事

国谷裕子著

請求記号：岩新/新赤/1636，登録番号：000164500



発行所

〒648-0280

和歌山県伊都郡高野町

高野山 385

高野山大学 図書館閲覧室

TEL：0736-56-3835

FAX：0736-56-5590

E-mail

service-lib@koyasan-u.ac.jp

twitter：@koyasanlib